



炎に願い込め 各地区で「どんど焼き」



北条区



五分一区



南高田区



南長池区



東和田区



荒屋区



中村区



川端区



上高田区



西尾張部区



西和田区



平林区

出初式・新年祝賀会 開かれる



出初式

令和2年1月11日(土)古牧公民館2階集會室において、恒例の古牧地区消防第六分団出初式(参加者101名)及び新年祝賀会(参加者94名)が開催されました。消防団の活動報告・各種表彰



新年祝賀会

を行い、昨年10月台風19号の近隣の災害を教訓に、今年の古牧地区の皆さんの無事故、無災害、安心・安全なまちづくりを来賓各位を含め参加者全員で誓い合い終了しました。(総務部)

歴史探索

ぐるりわがまち

上高田

上高田南向音頭は地元で創造・創作した純度100%の文化 古牧郷土史研究会 関川光彦

2019年度の古牧の文化芸能祭に上高田より小学生から区長まで大勢が音頭を歌い踊りに出演した。

- 1)晴天の霹靂 国道バイパスの開通により、美田は減少し水田地帯の風景は激減した。昭和30年代初め、突如生活の拠点である美田に杭が打ち込まれていた状況の後、国道バイパス(国道18号)が出来上がった。生活の拠点である多くの美田は極端に減少し以前の農村の姿は激変した。

踊り振り付け		上高田南向音頭	
1	2	1	2
3	4	3	4
5	6	5	6
7	8	7	8
9	10	9	10
11	12	11	12
13	14	13	14
15	16	15	16
17	18	17	18
19	20	19	20
21	22	21	22
23	24	23	24
25	26	25	26
27	28	27	28
29	30	29	30
31	32	31	32
33	34	33	34
35	36	35	36
37	38	37	38
39	40	39	40
41	42	41	42
43	44	43	44
45	46	45	46
47	48	47	48
49	50	49	50
51	52	51	52
53	54	53	54
55	56	55	56
57	58	57	58
59	60	59	60
61	62	61	62
63	64	63	64
65	66	65	66
67	68	67	68
69	70	69	70
71	72	71	72
73	74	73	74
75	76	75	76
77	78	77	78
79	80	79	80
81	82	81	82
83	84	83	84
85	86	85	86
87	88	87	88
89	90	89	90
91	92	91	92
93	94	93	94
95	96	95	96
97	98	97	98
99	100	99	100

上高田南向音頭 作詞 関川光彦 作曲 関川光彦
 振付 関川光彦
 演奏 関川光彦
 歌唱 関川光彦
 録音 関川光彦
 編集 関川光彦
 発行 関川光彦
 印刷 関川光彦
 発行所 関川光彦
 〒100-0001 東京都千代田区千代田 関川光彦事務所

平成三十一年一月完成
 作詞 関川光彦
 作曲 関川光彦
 振付 関川光彦
 演奏 関川光彦
 歌唱 関川光彦
 録音 関川光彦
 編集 関川光彦
 発行 関川光彦
 印刷 関川光彦
 発行所 関川光彦事務所

一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 二十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 三十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 四十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 五十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 六十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 七十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 八十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十一、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十二、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十三、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十四、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十五、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十六、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十七、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十八、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 九十九、ハア一 雨の音が 稲を揺らす
 百、ハア一 雨の音が 稲を揺らす

- 2)家を新築し移住した者の増加、車の激増と共に道路周辺の環境は一変した。人口と世帯数は毎年増加し続けた。核家族化が進行し、人々の生活様式や行動様式も変容。高齢化と孤独化の傾向もみられる。敗戦時の大変化とは別の変化である。
- 3)ここで文化創造の動きが胎動する。急激な生活環境の変化する状況下、地域住民の中に「知恵の先見の明」を持つ人達が居た。昭和30

年代初めより朝日歌壇秀歌入選を繰り返していた音頭の作詞者。それに作曲者、舞踊に詳しい振付者、歌唱者などが集い一致協力し、過去の伝統を大切にし、未来への希望と連帯を深く願い「音頭創作」に向けての強力な活動が始まった。かくして音頭は完成した。伝統と時代の変化を熟慮した地元特有のことを生かした、文化創造活動の成果でもある。

4面につづく

前頁のつづき

すでに30年間区民が共通理解し、後世に引き継がれる宝物として歌い踊られている。「機会あるごと・何処でも・いつでも」踊り歌い「人々の輪と和」を創ろうが願い。保存会も設立され公民館が事務局となり駆動軸の機能を果たしている。音頭が区民の「輪と和」の連

帯の綱としての文化機能が一層進行することが期待される。

- 4) 上高田南向音頭の歌詞と楽曲、振付も掲載してあるので、ご鑑賞願いたい。作詞は関川喜八郎、作曲は宮原満州治、振り付は宮島富夫、歌唱は小林忠勝・松本登志子、協力は宮島六郎時はながれ歌唱の一人を除き故人とられた。

台風19号災害の義援金のご報告とお礼

古牧地区住民自治協議会

台風19号災害の被災者への義援金をお願いしましたところ、多くの皆さまから心温まる義援金をお寄せいただきました。

お寄せいただきました義援金は、長野市災害対策本部にお届けしました。皆さまのご協力を心よりお礼申し上げます。

義援金総額 3,715,174円 (令和2年1月31日現在)

2月から3月までの主な行事のお知らせ (多くの皆様の参加をお待ちしています)

事業名	実施日	場所	実施内容	主催
介護者のつどい	2月25日	古牧公民館	介護をされている方、介護について知りたい方、ご参加ください	ボランティアセンター 244-8159
運動講演会	2月27日		コタツでテレビを見ながら簡単に出来る足つぼセルフケアを楽しく学びましょう	

娑婆鉛筆

しやばえんぴつ

ものを減らして、身軽で快適な生活を

暫く前から、妻が物の整理に凝っている。家の中で何かを見つめては、必要か不要かと問答を繰り返し、色々やっている。

こういうのを「断捨離」と言うらしい。ウィキペディア(インターネット百科事典)によると、入ってくるらない物を「断」ち、家にずっとあるいらぬ物を「捨」て、物への執着から「離」れることで、身も心も身軽で快適な生活と人生を手に入れる考え方とある。

妻の取捨選択が進んでくると、次第に私の方に意識が迫ってきた。この服は要るのか、アレは、コレは本当に必要かと。

「本当に」と問われるとそれ程でもない物が多い。いつか使うかもしれない、とりあえずそのまま、とやってきた結果だ。

初めははぐらかしていたが、最近は私もこの取捨選択に意識を注いでいる。ものが減った心地良さに慣れてきたからだ。続けていると、だんだんと決断も早くなってきた。

「不要なものを手放していく」ということは即ち「自分にとって本当に必要なものは何か」と問い続けること。心身ともに豊かな生活を送りたい。

(横澤 邦俊)



古牧地区の世帯数と人口

令和2年1月1日現在

11,512世帯

26,756人

(男 13,191人 女 13,565人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話 259-8359・FAX219-1057)
(E-mail:komaki@vivid.ocn.ne.jp)
- 発行者 長田 元行
- 編集 ぶらネットこまき編集委員会
- 印刷 SR